

互いに認め合い道徳的実践意欲を高める児童の育成 —対話的な学びとなる話し合い活動の工夫を通して—

特別研修員 道徳 田中博信（小学校教諭）

実 態

- ・道徳科の授業の中では道徳的価値に迫る発言ができ、善悪の判断もできる児童が多い。
- ・時と場に応じた望ましい行動をとること、他者の立場に立って考えることに課題がある。

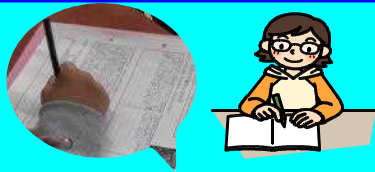
実 践

主題名 謙虚に広い心をもって B-（11）相互理解・寛容
資料名 「ブランコ乗りとピエロ」文部科学省

中心発問を考える場面で

手立て(1) 自分の考えを持たせる工夫

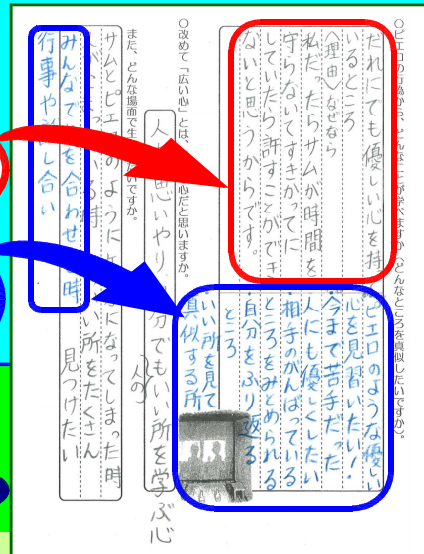
- 〈ワークシートへの記入〉
- ・自分の考えを確かめる
 - ・新たな考え、考えの補充を追記する



自分の考えを持つ

- 上段 -
初めの自分の考え

- 下段 -
新たな考え、考えの補充
(青色鉛筆で追記)



手立て(2) 話し合いの形態の工夫

自分の考えを広げる
友達の考えのよさを知る
〈ペア〉 → 〈全体〉

〈グループ〉 → 〈全体〉



考えを見つめ直す

考えを広げ、深める

○グループの話し合い

S1：「だれに対しても優しい心を持っているところです。なぜなら、私は自分勝手に許せないからです。」

S2：「どうしてそう思うの？」

S1：「優しさがないと許せないし、苦手な人にも話せないと思うからです。」

○全体的話し合い

S1：「だれに対しても優しい心を持っているところです。なぜなら、ピエロのよさな優しさがあれば、誰に対してもなによりなれるからです」

手立て(3) 話し合う内容の工夫

- 〈中心発問〉
- ・登場人物の心情を考える

- ・自分の生活の中で考える

「ピエロの行為から、どんなことが学べますか」

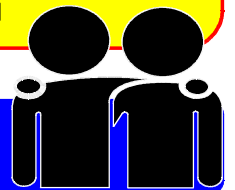
道徳的価値をこれまでの経験や自分の生活と重ね合わせながら考えるように

- ・「ぼくは、自分を腹立たせた人に、なかなか話しかけられないので…」
- ・「私は、腹を立てると、すぐに悪口を言うので…」

対話的な学びとなる話し合い活動の工夫

目指す児童像

互いに認め合い道徳的実践意欲を高めた児童



〈成果〉

- 話し合いの形態を工夫することで、自分の考えや友達の考えのよさを認め合い、道徳的価値を自分との関わりの中で捉えることができ、対話的な学びとなる話し合い活動となった。
- 対話的学びとなる話し合い活動を積み重ねていくことは、多面的に自分を見つめ直すことができ、互いに認め合い道徳的実践意欲を高める上で有効であった。

〈課題〉

- 話し合う時間の確保
- ・資料の特性を考慮して資料をあらかじめ読ませる。
- ・中心発問に関わる補助発問を精選する。